## 令和4年度 国際文化学科 専門教育科目 シラバス

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 比較文化論<br>Comparative Cultural Studies | 単位数 | 2 |
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 文化の一つである宗教をとりあげ、世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の視点から学ぶ。具体的には、学生がさまざまな宗教に関する基礎知識を習得するとともに、世界のさまざまな宗教について関心をもち、それぞれの特徴、各宗教間の関係が説明できるようになることを目標とする。 | | |
| 授業概要 | 最初に比較宗教学という学問の特徴や、信仰としてではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に、世界各地で見られる主要な宗教のなかから、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、儒教、道教、神道をとりあげ、それぞれの特徴、他の宗教との比較について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだそれぞれの宗教に関する基礎知識や比較宗教学による見方を習得しているかを問う。<br>【SDGs：⑩,⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 文化としての宗教<br>② 『旧約聖書』人間観、世界観<br>③ ユダヤ教（１）<br>④ ユダヤ教（２）<br>⑤ キリスト教（１）<br>⑥ キリスト教（２）<br>⑦ イスラーム<br>⑧ ヒンドゥー教（１）<br>⑨ ヒンドゥー教（２）<br>⑩ 仏教（１）<br>⑪ 仏教（２）<br>⑫ 儒教<br>⑬ 道教<br>⑭ 神道<br>⑮ 宗教の分類<br>⑯ 定期試験（記述式、持ち込み不可） | | |
| 予復習等 | 【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認する。<br>【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。 | | |
| 評価方法 | レポート５０％、定期試験５０％（授業の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない） | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 『よくわかる宗教学』／編：櫻井義秀・平藤喜久子／出版・ミネルヴァ書房 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 日本文化論<br>Japanese Cultural Studies | 単位数 | 2 |
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 村中　菜摘 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、さらに求められるものは何かを考えて行動に移すことで、日々の悩みや生きづらさに向き合い、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を見つけられるようになることを到達目標とする。同時に、自分を知ることで他者を理解し、よりよい人間関係の構築のヒントを見つけられることも到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | 多様な日本文化の側面の中から、日本人の精神文化を取り上げて進めていく。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へつながる作業である。ここでは日本人の精神文化の代表的な特徴として挙げられる「もののあはれ」、「無常」、「義理と人情」、「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を考えていく。「もののあはれ」については『源氏物語』、「無常」については主に『方上記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考えていく。<br>【SDGs：④,⑩】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（１）<br>② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（２）<br>③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（３）<br>④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（４）<br>⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（１）<br>⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（２）<br>⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（３）<br>⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（４）<br>⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（１）<br>⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（２）<br>⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（３）<br>⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（４）<br>⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（１）<br>⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（２）<br>⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（３）<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと<br>【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直し、整理しておくこと | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | テキストとしてプリントを配布する | | |
| 参考書 | 必要に応じてプリントを配布する | | |

| 科目名 | 民俗学<br>Folklore | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 各地で見られる民俗宗教を学ぶことを通じて、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを目指す。具体的には、学生が民俗宗教に関する基礎知識を習得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。 | | |
| 授業概要 | 最初に民俗学、民俗宗教の概念について学ぶ。次に各地で見られる民俗宗教の例として、大学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼の事例、沖縄伊良部島で行なわれている祭礼と民間宗教者の事例を紹介する。次に、民俗宗教で活動する民間宗教者について、日本と韓国の例を紹介する。さらにキリスト教、仏教、儒教と民俗宗教との関係について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだ民俗宗教に関する知識や民俗宗教研究に基づく見方を習得しているかを問う。<br><br>【SDGs：⑪,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 民俗学について<br>② 民俗宗教について<br>③ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼（１）<br>④ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼（２）<br>⑤ 沖縄伊良部島での祭礼<br>⑥ 沖縄伊良部島での民間宗教者<br>⑦ 民間宗教者と精霊憑依<br>⑧ 日本の民間宗教者（１）<br>⑨ 日本の民間宗教者（２）<br>⑩ 韓国の民間宗教者（１）<br>⑪ 韓国の民間宗教者（２）<br>⑫ キリスト教と民俗宗教<br>⑬ 仏教と民俗宗教<br>⑭ 儒教と民俗宗教<br>⑮ 整理とまとめ<br>⑯ 定期試験（記述式、持ち込み不可） | | |
| 予復習等 | 【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。<br>【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。 | | |
| 評価方法 | レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない） | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | |

| 科目名 | アジア文化論<br>Asian Cultural Studies | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本講義は、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、経済活動、価値観の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とする。特に漢字文化圏に属する中国、日本、シンガポール、ベトナムなどいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。アジアの共通性や文化の特殊性を導き出すことによって、異文化交流の大切さと難しさを理解してもらう。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>アジアにおけるいくつかの国と地域の文化現象を通して、異文化との交流と文化摩擦の問題について考える。考察は、大きく四つに分けって行う：①外交関係、②経済成長や社会発展、③抱えている焦点問題、④人の往来で見られるカルチャーショック。それぞれの考察に事例研究も取り入れて、交流の特徴、現状と文化受容を検討する。最後の３回授業でいくつかのグループに分けて、アジアの国々について調べて発表してもらう。グループ発表の準備と発表結果は授業評価の一部として考えている。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ① アジアの国々<br>② 日中国交正常化でみられる政治と文化の摩擦<br>③ アジア四小龍と日本<br>④ 「反日デモ」から見る中国式考え方ってなに？<br>⑤ 大東亜共栄圏における東南アジアの変遷<br>⑥ アメリカが参加した４つの戦争<br>⑦ 南アジアのビッグボス：インド<br>⑧ チベット高原の水に巡る５つの不思議<br>⑨ 対抗心を煽ぐ中国とインドの妙な自信<br>⑩ やはりイスラームって理解しにくい？<br>⑪ なぜ中東は戦争が絶えない？<br>⑫ 中央アジアと新疆ウイグル自治区の意外な繋がり<br>⑬ グループ発表<br>⑭ グループ発表<br>⑮ グループ発表 | | |
| 予復習等 | 【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと<br>【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行ったりする | | |
| 評価方法 | 出席状況と最後のグループ発表による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 使わない。PPTを用意する | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 中国文化論<br>Chinese Cultural Studies | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 中国は世界一の人口を持つ、多民族国家であり、唯一消滅していない古代文明の地である。改革開放後経済力が急上昇し、アメリカに続きGDPで世界2位にまで発展した。本講義は、中国の多様性文化現象から、少数民族、世界遺産、大衆娯楽文化などに焦点をあて、中国社会の特徴と中国式考え方に触れてもらう。日本と異なる中国社会や文化特徴を理解し、グロバール化社会で多文化の共存していくことの大切さと、自分自身の世界観を広げることを目標とする。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>中国の多民族文化を紹介しながら、中国社会における多様性を考察していく。改革開放以降に表れてきた経済発展と娯楽文化も紹介する。理解を深めるためにビデオなどの視覚教材を活用し、講義を進めていく。毎回感想文の提出を義務づける。感想文の内容を自主学習課題の成果と見なし、成績評価に反映させる。また、この授業は隔週開講の高大連携授業で、高校生と大学生の交流機会も設けるので、積極的に参加しよう。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ① 中国って、どんな国？<br>② 中国の世界遺産<br>③ 漢民族と少数民族(岐阜長良川鵜飼と大理の意外な繋がり)<br>④ 中国の「Z世代」と「国潮」<br>⑤ 中国の食文化と観光<br>⑥ ゼロコロナからみる中国式考え方<br>⑦ グループ発表<br>⑧ グループ発表 | | |
| 予復習等 | 【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。<br>【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行ったりする | | |
| 評価方法 | 出席、感想文提出と最後のグループ発表による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 使わない。PPTを用意する | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 韓国文化論<br>Korean Cultural Studies | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陸や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることが期待される。 | | |
| 授業概要 | 最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陸の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地支配とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行うので、授業が開講される日に注意すること。全８回の授業であり、回数の少ない授業なので、予習復習に努めることが授業内容を理解するために大切である。<br><br>【SDGｓ：⑩,⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 地理<br>② 古朝鮮と漢四郡<br>③ 高句麗と三韓<br>④ 統一新羅と渤海<br>⑤ 高麗<br>⑥ 朝鮮<br>⑦ 大韓帝国と日韓併合<br>⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国<br>⑨ 定期試験（記述式、持ち込み不可）<br>⑩<br>⑪<br>⑫<br>⑬<br>⑭<br>⑮<br>⑯ | | |
| 予復習等 | 【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。<br>【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理に<br>努めること。 | | |
| 評価方法 | レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない） | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 『朝鮮を知る事典』／著・伊藤亜人他／出版・平凡社 | | |

| 科目名 | ヨーロッパ文化論<br>European Cultural Studies | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 松井　隆幸 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 人間の思想のいとなみ・努力に対する尊敬をもってほしい。そのよすがとしてヨーロッパ思想史の基本線を紹介します。受講者は、この授業で扱われた本のうち少なくとも一冊を自分自身で実地に読んでみてほしいと思います。学期末の課題としては、その一冊の感想ないし内容の要約をレポートすることを課することになります。 | | |
| 授業概要 | ヨーロッパ思想史の基本線をギリシア的伝統とヘブライ的伝統という二つの流れの合流・総合という大枠でとらえ、これを理解するための基本的知識を伝達することをめざします。そして、その基本線を、ギリシア神話とヘブライ語聖書というそれぞれのはじまりから２０世紀の破局的経験に対する哲学者アーレントの思想的対決までたどりなおします。一回ごとの授業には１冊か２冊のヨーロッパ思想の古典的著作をとりあげ、その内容を一定の視点から要約紹介することをします。<br><br>【SDGs：③,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ホメロス「イリアス」と「オデュッセイア」　人間の運命<br>② ギリシア神話　人と神のちがい<br>③ ギリシア悲劇「オイディプス王」「アンティゴネー」　悲劇の成立<br>④ ソフィストとソクラテス「ソクラテスの弁明」「クリトン」両者のちがい<br>⑤ プラトン「ゴルギアス」「国家」ソクラテスから受け継いだもの<br>⑥ アリストテレス「ニコマコス倫理学」プラトンとのちがい<br>⑦ ヘブライ語聖書（１）「創世記」「出エジプト記」一神教<br>⑧ ヘブライ語聖書（２）「ヨブ記」神義論<br>⑨ イエスと新約聖書（「福音書」）愛の教え<br>⑩ アウグスティヌス「告白」ギリシアとヘブライの総合<br>⑪ デカルト「方法序説」科学革命と近代哲学のはじまり<br>⑫ ロックとヒューム「人間知性論」「人性論」イギリス経験論とその帰結<br>⑬ カント「純粋理性批判」「道徳形而上学の基礎づけ」批判哲学の立場<br>⑭ ヘーゲル「歴史哲学講義」歴史哲学の発想<br>⑮ アーレント「人間の条件」２０世紀全体主義の経験 | | |
| 予復習等 | 予習は必要ありません。授業でとりあげた本をぜひ手にとって読んでみてください。 | | |
| 評価方法 | レポート１００％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『ヨーロッパ思想入門』/著：岩田靖夫/出版：岩波書店 | | |
| 参考書 | 授業のなかで紹介します | | |

| 科目名 | 英米文化論<br>British and American culture | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 鈴木　辰一 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | イギリス文化の様々な側面を学び，イギリスを含む英語圏の文化を研究する上で必要な最低限の知識を得ることを目的とします。異文化理解を深めることを通じて，異文化を排除しようとするのではなく、異文化を積極的に、肯定的に受け入れる姿勢を身につけます。また、イギリスを含む英語圏の人々の我々とは異なる価値観や考え方を学び、国際的な視野を持った人間になることを目標とします。 | | |
| 授業概要 | イギリスを中心とした英語圏の社会、文化を概観します。毎回の授業では、キーとなるトピックを一つ取り上げ、該当する箇所の講義を行います。扱うトピックは、「政治・宗教・教育」など以下の授業計画に記載されているトピックです。予習を前提として授業を進めていきますので、指定された箇所をあらかじめ読んでおくことが求められます。また、各週で話題になっている英語圏の国々に関するニュースなどにも触れ、現在のイギリスを中心とした英語圏社会をめぐる状況を理解していきます。<br><br>【SDGs：⑰】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス／イギリスについて<br>② 王室について<br>③ 政治について<br>④ 宗教について<br>⑤ 初等・中等教育について<br>⑥ 高等教育について<br>⑦ ジャーナリズムについて<br>⑧ 大英博物館について<br>⑨ シェイクスピアについて<br>⑩ 児童文学について<br>⑪ 音楽について<br>⑫ 食生活について<br>⑬ スポーツについて<br>⑭ 世界におけるイギリスについて<br>⑮ まとめ | | |
| 予復習等 | 【予習】授業で扱う章を事前に読み、配布したプリントの穴埋めをしてくること<br>【復習】参考文献などを読み、授業の内容に関する理解を深めておくこと | | |
| 評価方法 | 授業姿勢（３０％）、期末レポート（７０％） | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『On Britain: An Introduction』／著：Adrian J. Pinnington／出版：開文社 | | |
| 参考書 | 初回の授業で提示する。 | | |

| 科目名 | 文化人類学<br>Cultural Anthoropology | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 日本をはじめとしたアジアさらには世界の文化を学ぶことを通じて、価値観の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が文化人類学の基礎知識を習得するとともに、世界の多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、それぞれの事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。 | | |
| 授業概要 | 最初に、文化人類学という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、文化（生活様式）のなかから婚姻、家族、出自、呪術、信仰などをとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方や概念を学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、出自、呪術、信仰などに関する文化人類学の基礎知識や文化人類学による見方を習得しているかを問うので、復習を欠かさないこと。<br><br>【SDGs：⑩,⑪,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 文化人類学について<br>② 文化について<br>③ 婚姻（１）婚姻の概念<br>④ 婚姻（２）文化人類学が考える婚姻（南インド・ナヤールの婚姻、岐阜白川村の婚姻）<br>⑤ 婚姻（３）中国漢族、韓国、日本の冥婚<br>⑥ 父と母<br>⑦ 家族（１）家族の概念(南インド・ナヤールの家族、岐阜白川村の家族)<br>⑧ 家族（２）私たちが考える家族と文化人類学が考える家族<br>⑨ 出自（１）出自の概念<br>⑩ 出自（２）中国漢族の場合、韓国の場合:父系出自<br>⑪ 出自（３）その他の地域の場合：母系出自、双系出自<br>⑫ 出自（３）日本の場合<br>⑬ 呪術（１）妖術と邪術<br>⑭ 呪術（２）日本の場合<br>⑮ 憑依と脱魂<br>⑯ 試験（記述式、持ち込み不可） | | |
| 予復習等 | 【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。<br>【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。 | | |
| 評価方法 | レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない） | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 『文化人類学入門』／著：祖父江孝男／出版：中央公論社 | | |

| 科目名 | 文化交流論<br>Cultural Interaction | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期）【開放科目】 | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 文化交流を文化の接触、文化の受入れととらえて、日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教がインド、中国、日本でどのように展開したかを理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を習得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を習得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。 | | |
| 授業概要 | 仏教に関する基礎知識を学ぶとともに、文化交流を文化の接触、文化の受入れととらえ、インドで発生した仏教がインド在来の文化からどのような影響を受けたか、また、中国に伝来した仏教がどのように展開したかについても学ぶ。はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が説いた教え、釈迦以後に発生した大乗仏教について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として禅、天台教学、華厳教学についてとりあげ、また仏教と儒教との関係についても学ぶ。日本仏教についても学ぶ。<br><br>【SDGs：⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 仏教とは<br>② バラモン教、ウパニシャッド哲学<br>③ 釈迦の生涯<br>④ 釈迦の悟りの内容<br>⑤ 苦しみの由来<br>⑥ 修行について<br>⑦ 仏教とバラモン教、原始仏教、部派仏教<br>⑧ 大乗仏教（１）：多くの仏陀、空<br>⑨ 大乗仏教（２）：唯識、如来像、六波羅蜜<br>⑩ 中国での仏教（１）：天台教学、華厳教学<br>⑪ 中国での仏教（２）：浄土信仰、仏教と儒教<br>⑫ 中国での仏教（３）：禅宗の展開<br>⑬ 日本での仏教（１）：奈良仏教、平安仏教<br>⑭ 日本での仏教（２）：鎌倉仏教<br>⑮ 日本での仏教（３）：死者供養<br>⑯ 定期試験（記述式、持ち込み不可） | | |
| 予復習等 | 【予習】指定された参考書をよく読んでおくこと。<br>【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。 | | |
| 評価方法 | レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない） | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。 | | |
| 参考書 | 『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会 | | |

| 科目名 | 日本文学論<br>Japanese Literature | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期）【開放科目】 | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 村中　菜摘 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「日本語」の書きことばによって成立したしたさまざまな文学作品を、そこに表現された人間の内面を掘り起こすことで人間の理解につなげ、実生活を心豊かでよりよいものにするきっかけをつかむことを目的とする。各作品の成立の背景や特徴を味わいながら、作者の思いや登場人物の心の動きを知り、作品を通じて私たちの心に存在するさまざまな感情に気づくことで、自己および他者を理解するとともに、今後の人生をどう歩むかを自ら考えて模索する手段として日本文学を活用できるようになることを到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | 本講義は、上代・中古・中世・近世・近代・現代の各時代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、その世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、読書によって自らの人生を磨く若者が増えることを希望的目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにしてもらえるよう講義を進める。<br><br>【SDGs：④,⑤,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、日本最古の和歌集『万葉集』概説<br>② 『万葉集』から、和歌とは何かを考える<br>③ 和歌から物語へ（１）物語文学の流れ―作り物語、歌物語―<br>④ 和歌から物語へ（２）物語文学の流れ―日記文学、『源氏物語』へ―<br>⑤ 『源氏物語』概説、登場人物の紹介<br>⑥ 『新古今和歌集』の意義、八代集について<br>⑦ 『新古今和歌集』の表現技巧―本歌取りを中心に―<br>⑧ 『徒然草』にみられる視点―人間への興味<br>⑨ 近松門左衛門―人形浄瑠璃と歌舞伎の脚本家―<br>⑩ 日本文学的視点から、どう生きるかを考える<br>⑪ 夏目漱石（１）初期作品の特徴、作品テーマの変化<br>⑫ 夏目漱石（２）近代人の苦悩―エゴイズムを中心に<br>⑬ 夏目漱石（３）近代人の心の救済をめぐって<br>⑭ 谷崎潤一郎（１）初期作品における女性崇拝<br>⑮ 谷崎潤一郎（２）耽美主義と女性崇拝<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと<br>【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直し、整理しておくこと | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | テキストとしてプリントを配布する | | |
| 参考書 | 適宜プリントを配布する | | |

| 科目名 | 比較文学論<br>Comparative Literature | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 村中　菜摘 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 唐の玄宗の妃である楊貴妃の物語を扱った、日本の古典文学作品『唐物語』の内容を味わい、そのもととなった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか（逆に、どのような情報が取り入れられていないか）、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、私たちに与えられる多くの情報に対しどのように向き合うべきかを自分なりに判断し、決断できる心を養うことを到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | 日中の古典文学作品を読み比べる作業から、それぞれの成立の背景や特徴、作品の狙い、作者の意図などを分析し、ものごとの本質を見出すことを目的とした授業である。具体的には中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（１２世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をゆっくり購読しながら、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に描かれた楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのような表現となっているのか」を各作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。<br><br>【SDGs：④,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、『唐物語』の概要<br>② 『唐物語』購読（１）楊氏の娘・玉環、玄宗の後宮に召される<br>③ 楊貴妃の魅力についての比較（１）『長恨歌伝』における描かれ方<br>④ 楊貴妃の魅力についての比較（２）『長恨歌伝』の意図<br>⑤ 『唐物語』購読（２）玄宗の楊貴妃寵愛、世間からの羨望<br>⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（１）『長恨歌伝』における描かれ方・意図<br>⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（２）『楊太真外伝』における描かれ方・意図<br>⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（３）『唐物語』の意図、全体のまとめ<br>⑨ 『唐物語』購読（３）寵愛の危機―玉の笛の事件―<br>⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（１）『楊太真外伝』における描かれ方<br>⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（２）『楊太真外伝』の意図<br>⑫ 『唐物語』購読（４）長生殿での永遠の愛の誓い<br>⑬ 『唐物語』購読（５）安禄山の乱起こる、逃避行、楊貴妃殺害<br>⑭ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（１）<br>⑮ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（２）<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと<br>【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直し、整理しておくこと | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | テキストとしてプリントを配布する | | |
| 参考書 | 適宜プリントを配布する | | |

| 科目名 | 国際関係論<br>International Relations | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 荒木　隆人 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本講義の目的は国際関係の基本的な理論（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）とウェストファリア体制から冷戦後までの国際関係の歴史を学ぶことである。到達目標としては、ウェストファリア体制から冷戦後の世界までの国際社会の在り方を国際関係の基本的な理論に基づいて理解し、説明ができるようになることである。 | | |
| 授業概要 | 本講義では、主として国際関係を考察する上での基本的な理論的視座（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）の理解と、国際関係の歴史の検討を行う。国際関係の歴史では、国際社会の基本的な枠組み（主権国家体制）が成立したウェストファリア体制から冷戦後の世界までの検討を行う。最終的に国際関係の理論に基づいて国際社会の歴史を検討する視座を養う。<br><br>【SDGs：⑩、⑯】 | | |
| 授業計画 | ①イントロダクション<br>②国際関係の見方（１）リアリズム<br>③国際関係の見方（２）リベラリズム<br>④国際関係の見方（３）コンストラクティビズム<br>⑤ウェストファリア体制と主権国家の誕生<br>⑥ナショナリズムと帝国主義<br>⑦第一次世界大戦<br>⑧国際連盟の成立<br>⑨第二次世界大戦<br>⑩国際連合の成立<br>⑪冷戦<br>⑫地域主義の挑戦（１）ＥＵ<br>⑬地域主義の挑戦（２）ＡＳＥＡＮ<br>⑭冷戦後の国際問題（１）<br>⑮冷戦後の国際問題（２）<br>⑯まとめ | | |
| 予復習等 | 【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること<br>【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること | | |
| 評価方法 | 小課題２０％、期末レポート８０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222 | | |
| 参考書 | 参考書は講義内で指示する。 | | |

| 科目名 | 国際協力論<br>International Cooperation | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 荒木　隆人 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 最近、「SDGs」や「持続可能」という言葉をよく聞くようになっている。「SDGs」や「持続可能」といったことをキーワードに、本講義では、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの課題をもとに国際協力のあり方を学ぶ。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の問題、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援といった課題について十分に理解し、説明できることである。 | | |
| 授業概要 | 2015年、国連総会において持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、日本も積極的にその推進に取り組んでいる。SDGsの具体的目標の中でも、途上国の貧困・飢餓に関わる問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、基本的人権の問題（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）への取り組みは中心的なものである。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。それらを考えることは、以下のようにSDGsのすべての項目を考えることにつながる。<br><br>【SDGs：】①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰ | | |
| 授業計画 | ①イントロダクション：持続可能な開発目標(SDGs)とは<br>②貧困問題と開発援助（南北問題と持続可能な開発）<br>③貧困問題と開発援助（政府開発援助）<br>④貧困問題と開発援助（日本のODA）<br>⑤貧困問題と開発援助（ODAの展望）<br>⑥人権問題と国際協力（戦後の人権保護）<br>⑦人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護）<br>⑧人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護）<br>⑨地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは）<br>⑩地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム１）<br>⑪地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム２）<br>⑫平和構築の国際協力（平和維持）<br>⑬平和構築の国際協力（平和構築）<br>⑭平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力）<br>⑮平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力）<br>⑯持続可能な開発目標(SDGs)の展望 | | |
| 予復習等 | 【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること<br>【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること | | |
| 評価方法 | 小課題２０％、期末レポート８０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222 | | |
| 参考書 | 『国際協力―その新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。 | | |

| 科目名 | 異文化コミュニケーション<br>Cross-Cultural Communication | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 荒木　隆人 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本講義の目的は、本学科においてこれまで英語、中国語、韓国語といった言語や英米、ヨーロッパ、アジアの文化を学んできた受講生が、本講義において異文化コミュニケーションの思考と方法を理解した上で、受講生各自が暮らす地域における多文化共生の問題を自ら考え、解決の方法を提示できるようになることである。 | | |
| 授業概要 | 本講義では、まず、異文化コミュニケーションの基本概念として、文化やコミュニケーション、多文化主義や間文化主義といった異文化コミュニケーションの重要概念を学ぶ。次に、異文化コミュニケーションの具体的課題として、地域における多文化共生の現状と課題について学ぶ。より具体的には、地域に住む外国人住民に関わる諸問題の存在を知り、それらに対していかなる解決方法が考えられるかを学ぶ。<br><br>【SDGs：】④、⑤、⑨、⑩、⑯、⑰ | | |
| 授業計画 | ①イントロダクション<br>②異文化コミュニケーションを学ぶ意義<br>③文化とコミュニケーション（１）<br>④文化とコミュニケーション（２）<br>⑤異文化コミュニケーションの障壁（１）<br>⑥異文化コミュニケーションの障壁（２）<br>⑦異文化コミュニケーションの障壁（３）<br>⑧深層文化（１）<br>⑨深層文化（２）<br>⑩対人コミュニケーション（１）<br>⑪対人コミュニケーション（２）<br>⑫異文化コミュニケーションの基本概念：多文化主義<br>⑬異文化コミュニケーションの基本概念：間文化主義<br>⑭異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（１）<br>⑮異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（２）<br>⑯まとめ | | |
| 予復習等 | 【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること<br>【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること | | |
| 評価方法 | 小課題２０％、期末レポート８０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』著・石井敏ほか／出版：有斐閣　ISBN　978-4641281332 | | |
| 参考書 | 参考書は講義内で指示する。 | | |

| 科目名 | カレッジ･イングリッシュⅠ<br>College English Ⅰ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 武藤　美代子 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業の目的は、さまざまな分野の英文に取り組むことを通して語彙力や表現力を拡充させ、英語の総合力の上達をはかることである。　到達目標は、国際連合が提案している「持続可能な開発目標」に関連した映像ニュースを題材に、英語の4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の上達を目指す。 | | |
| 授業概要 | I. 毎授業時、次のアクティビティを行う。<br>（１）＜Key Word Study＞によって、単語や表現の意味と使用法を理解する。<br>（２）DVDを観る。<br>（３）CDを聞きながら、ニュースのディクテイションをする。<br>（４）ニュースの内容に関する問題に取り組む。<br><br>II. リスニング練習および英語圏文化学習として、映画を鑑賞する。実用的な英語に触れ映像の助けを借りながら英語を楽しむと同時に、英語圏文化に触れる時間をもつ。<br><br>【SDGs：目標①～⑯の項目を取り上げているテキストを使用する。】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス<br>② LESSON 1 No Poverty<br>③ LESSON 1/2 Zero Hunger<br>④ LESSON 2 Zero Hunger<br>⑤ LESSON 3 Good Health & Well-being<br>⑥ LESSON 3/4 Quality Education<br>⑦ LESSON 4 Quality Education<br>⑧ 映画と英語 ①<br>⑨ 映画と英語 ②<br>⑩ Review (Unit 1-4)<br>⑪ LESSON 5 Gender Equality<br>⑫ LESSON 6 Clean Water & Sanitation<br>⑬ LESSON 7 Affordable & Clean Energ<br>⑭ LESSON 8 Decent Work & Economic Growth<br>⑮ Review (Unit 5-8)<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。<br>【復習】授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。 | | |
| 評価方法 | 出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50% | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『AFPニュースで見る世界 5』　編著: 宍戸真, Kevin Murphy 他　出版: 成美堂 | | |
| 参考書 | 英語辞書必携 | | |

| 科目名 | カレッジ･イングリッシュⅡ<br>College English Ⅱ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 武藤　美代子 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業の目的は、カレッジ･イングリッシュIで培った英語力を活用し、さまざまな分野の英文に取り組むことを通して語彙力や表現力を拡充させ、英語の総合力の上達を図ることである。到達目標は、国際連合が提案している「持続可能な開発目標」に関連した映像ニュースを題材に、英語の4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）の上達を目指す。 | | |
| 授業概要 | I. 毎授業時、次のアクティビティを行う。<br>（１）＜Key Word Study＞によって、単語や表現の意味と使用法を理解する。<br>（２）DVDを観る。<br>（３）CDを聞きながら、ニュースのディクテイションをする。<br>（４）ニュースの内容に関する問題に取り組む。<br><br>II. リスニング練習および英語圏文化学習として、映画を鑑賞する。実用的な英語に触れ映像の助けを借りながら英語を楽しむと同時に、英語圏文化に触れる時間をもつ。<br><br>【SDGs：目標①～⑯の項目を取り上げているテキストを使用する。】 | | |
| 授業計画 | ① イントロダクション<br>② LESSON 9 Industry, Innovation & Infrastructure<br>③ LESSON 9/10 Reduced Inequalities<br>④ LESSON 10 Reduced Inequalities<br>⑤ LESSON 11 Sustainable Cities & Communities<br>⑥ Halloweenの歴史<br>⑦ LESSON 11/12 Responsible Consumption & Production<br>⑧ LESSON 12  Responsible Consumption & Production<br>⑨ LESSON 13 Climate Action<br>⑩ LESSON 14 Life Below Water<br>⑪ LESSON 15 Life on Land<br>⑫ LESSON 16 Peace, Justice & Strong Institutions<br>⑬ 映画と英語 ①<br>⑭ 映画と英語 ②<br>⑮ Review (Unit 9-16)<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。<br>【復習】授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。 | | |
| 評価方法 | 出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50% | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『AFPニュースで見る世界 5』　編著: 宍戸真, Kevin Murphy 他　出版: 成美堂 | | |
| 参考書 | 英語辞書必携 | | |

| 科目名 | カレッジ･イングリッシュⅢ<br>College English Ⅲ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 武藤　美代子 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業の目的は、主にリスニングおよびスピーキングの練習を通して、英語コミュニケーション能力の上達を図ることである。 到達目標は、テキストのさまざまなトピックについて、あるいはDVDやCDで見聞したことをもとに、ペアあるいはグループで英語による意見交換をし、英語コミュニケーション能力を上達させることである。 | | |
| 授業概要 | 第1回授業時にグループを作ります。必ず出席すること。<br>1. 授業の内容は下記の通りです。テキストはビデオ教材です<br>（1）DVD視聴後、重要語句や慣用句およびスクリプトの内容を確認する。<br>（2）テキストの練習問題（スピーキング / リスニング）に取り組む。<br>（3）ペアやグループで、習得した表現を活用して各ユニットのテーマについてディスカッションをする。<br>2.口頭発表を1回(ペア)行う。<br>3. リスニング練習および英語圏文化学習として、映画を鑑賞する。実用的な英語に触れ映像の助けを借りながら英語を楽しむと同時に、英語圏文化に触れる時間をもつ。<br>【SDGs：④】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス<br>② Unit 1 Adventure Activities<br>③ Unit 1/2 Fun Festivals<br>④ Unit 2 Fun Festivals<br>⑤ Unit 3 Sounds Good!<br>⑥ Review (Unit 1-3)<br>⑦ 映画と英語 ①<br>⑧ 映画と英語 ②<br>⑨ Unit 4 The Big Screen<br>⑩ Unit 4/5 Now and Then<br>⑪ Unit 5 Now and Then<br>⑫ Unit 6 Out of the City<br>⑬ Unit 6/7 Traveling Around<br>⑭ Unit 7 Traveling Around<br>⑮ Review (Unit 4-7)<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。<br>【復習】授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。 | | |
| 評価方法 | 出席・授業参加度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50% | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | *Global Connections*　編著:Sarah Morikawa, Luke Harrington / 出版:センゲージ ラーニング | | |
| 参考書 | 英語辞書必携 | | |

| 科目名 | カレッジ･イングリッシュⅣ<br>College English Ⅳ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 武藤　美代子 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業の目的は、カレッジイングリッシュIIIで培った英語力を活用し、主にリスニングおよびスピーキングの練習を通して、英語コミュニケーション能力の上達を図ることである。 到達目標は、テキストのさまざまなトピックについて、あるいはDVDやCDで見聞したことをもとに、ペアあるいはグループで英語による意見交換をし、英語コミュニケーション能力を上達させることである。 | | |
| 授業概要 | 第1回授業時にグループを作ります。必ず出席すること。<br>1. 授業の内容は下記の通りです。テキストはビデオ教材です<br>（1）DVD視聴後、重要語句や慣用句およびスクリプトの内容を確認する。<br>（2）テキストの練習問題（スピーキング / リスニング）に取り組む。<br>（3）ペアやグループで、習得した表現を活用して各ユニットのテーマについてディスカッションをする。<br>2.口頭発表を1回(グループ)行う。<br><br>【SDGs：④】 | | |
| 授業計画 | ① イントロダクション<br>② Unit 8 Ecotourism<br>③ Unit 8/9 Markets<br>④ Unit 9 Markets<br>⑤ Unit 10 Trash<br>⑥ Halloweenの歴史<br>⑦ Unit 11 Disappearing Species<br>⑧ Review (Unit 8-11)<br>⑨ Unit 12 Green Living<br>⑩ Unit 12/13 Living Abroad<br>⑪ Unit 13 Living Abroad<br>⑫ Unit 14 Older and Older<br>⑬ 口頭発表（前半）<br>⑭ 口頭発表（後半）<br>⑮ Review (Unit 12-14)<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、問題の解答をノートに記入しておくこと。<br>【復習】授業後に、重要語句や慣用句を覚え、既習の場面の音声を数回聞くこと。 | | |
| 評価方法 | 出席・授業参加度20%、グループ発表20%、小テスト10%、定期試験50% | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | *Global Connections*　編著:Sarah Morikawa, Luke Harrington / 出版:センゲージ ラーニング | | |
| 参考書 | 英語辞書必携 | | |

| 科目名 | 海外言語・文化演習<br>Language and Cultural Studies | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１・２年全期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 各担当教員 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 海外言語・文化演習（英語圏）、（中国語圏）、（韓国）を通じて、習得した英語、中国語、韓国語の能力を高め、他国の文化・習慣などに触れることによって、学生の視野が広がることを目指す。 | | |
| 授業概要 | 海外言語・文化演習では、海外の研修校においてネイティブスピーカーの現地教員による言語および文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。滞在先での滞在は8日～10日を予定している。参加者には帰国後、研修成果としての課題提出を求める。<br><br>【SDGs：⑩,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 出発前にオリエンテーションを実施する（3回）。<br>② 現地研修校における語学・文化研修。<br>③ 帰国後、課題提出。 | | |
| 予復習等 | 【予習】研修先の国や大学について調べておくこと。 | | |
| 評価方法 | 現地研修先の参加態度50%、提出課題50%で評価する。 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | なし | | |
| 参考書 | 研修先の言語・文化に関する書籍。 | | |

| 科目名 | 初級中国語Ⅰ<br>Basic ChineseⅠ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業は中国語の初心者向きの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。<br>一年間を通して「初級中国語I、II」で中国語検定資格の準四級あるいは四級を取得できるレベルを目指す。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。<br>　テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を行う。毎回授業の最後にリスリングが入った小テストを行う。小テスト結果も授業評価の一部とする。<br>授業に合わせ最新の中国ネタや音楽なども紹介する。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　単母音、複合母音<br>②　子音、声調<br>③　変調の規則<br>④　第1課　お名前は？<br>⑤　第2課　これは私のパソコンです。<br>⑥　第3課　ここは寒いです。<br>⑦　第4課　７時に起きます。<br>⑧　第5課　学校まで遠いです。<br>⑨　第6課　何コマがありますか。<br>⑩　第7課　お幾つですか。<br>⑪　第8課　図書館で勉強します。<br>⑫　第9課　どこへ行きましたか。<br>⑬　第10課　パンを食べたいです。<br>⑭　復習<br>⑮　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『楽しく学ぼう　やさしい中国語　（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝　2,500＋税 | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 初級中国語Ⅱ<br>Basic ChineseⅡ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本授業は中国語の初心者向きの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。<br>一年間を通して「初級中国語I、II」で中国語検定資格の準四級あるいは四級を取得できるレベルを目指す。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。<br>　テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を行う。毎回授業の最後にリスリングが入った小テストを行う。小テスト結果も授業評価の一部とする。<br>授業に合わせ最新の中国ネタや音楽なども紹介する。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　前期の復習<br>②　第11課　母より背が高いです。<br>③　第12課　中国へ行ったことがあります。<br>④　第13課　手紙を書いています。<br>⑤　第14課　いつ来たのですか。<br>⑥　第15課　英語ができます。<br>⑦　第16課　15課を学び終えました。<br>⑧　第17課　母が送ってくれました。<br>⑨　第18課　中国語が聞いて分かります。<br>⑩　第19課　走るのが速いです。<br>⑪　第20課　彼はフランス語を教えています。<br>⑫　第21課　本をたくさん読んでください。<br>⑬　第22課　中国へ帰ります。<br>⑭　中国語の発表会<br>⑮　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『楽しく学ぼう　やさしい中国語　（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝　2,500＋税 | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 中級中国語Ⅰ<br>Intermediate ChineseⅠ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 鄭　躍慶 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 中国文化を題材とした各本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の理解力を高めていく。また中国文化を紹介することによって、中国語や中国の社会に関する理解をさらに深めていくことは本講義の目的と到達目標である。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持ち、学習の意欲を持つように促す。 | | |
| 授業概要 | 本授業は正しい発音で日常会話ができることを目標する。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。二回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。<br><br>【SDGs：④,⑤,⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　ガイダンス<br>②　第一課　首都北京<br>③　第一課　　練習<br>④　第二課　民族と気候<br>⑤　第二課　練習<br>⑥　第三課　人口<br>⑦　第三課　練習<br>⑧　第四課　方言<br>⑨　第四課　練習<br>⑩　第五課　泰山<br>⑪　第五課　練習<br>⑫　第六課　祝祭日<br>⑬　第六課　練習<br>⑭　中国語の発表会<br>⑮　復習<br>⑯　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】授業前は単語，文法、本文を予習する。<br>【復習】授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。 | | |
| 評価方法 | 授業への参加状況：授業の参加態度20%.小テスト20%.定期試験60%。 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 【楽しく学ぼう　やさしい中国語（講読編）】郁文堂　著者：王武曇　張慧娟　朱藝（２６００＋税） | | |
| 参考書 | 授業中で随時に紹介する。 | | |

| 科目名 | 中級中国語Ⅱ<br>Intermediate ChineseⅡ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 中国文化を題材とした各本文を勉強して、正確できれいな中国語の発音を覚え、中国語の読む、聞く、話す、書くなどの技能を学び、中級レベル以上の中国語能力を身につける。音声、映像などを利用して、できるだけ多くの現代中国を知り、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。本講座は、学生が本文で学習した語彙、文法の要点、いろいろな場面の表現を中国語で聞いて理解できる、自分で使える、ことを目指すものとする。 | | |
| 授業概要 | 授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、勉強する中で学生が本文中の主な文法を理解するだけではなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。外国語教育の観点からは、学生が中国語学習を通して、その表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。一課終わるごとに小テストが行うので，復習が必ずやっていく。<br><br>【SDGs：④, ⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　前期の内容の復習<br>②　第七課　　飲食文化<br>③　　練習　小テスト<br>④　第八課　　薬膳<br>⑤　　練習　小テスト<br>⑥　第九課　　体育健身運動<br>⑦　　練習　小テスト<br>⑧　第十課　　動物<br>⑨　　練習　小テスト<br>⑩　第十一課　旗袍<br>⑪　　練習　小テスト<br>⑫　第十二課　大学<br>⑬　　練習　小テスト<br>⑭　口頭発表<br>⑮　復習<br>⑯　定期試験 | | |
| 予復習等 | 前回の授業で指定した教科書の内容を事前に読んでおくこと。次回の教科書範囲を予習し、新出単語、新出語句、慣用表現、構文を調べておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況３０％、小テスト20%、試験５０％による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 前期使った教科書の後半を引き続き使用する | | |
| 参考書 | 授業の中で随時紹介する | | |

| 科目名 | 応用中国語Ⅰ<br>Practical ChineseⅠ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 中国語で言いたいことを言ってみたい，中国語検定試験を受けていみたい，加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて，もう少し知ってみたい学生を対象にする。中国語検定試験（4級）の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。日常生活でよく使う中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つのスキルが備わっていることを目指す。 | | |
| 授業概要 | 中国語検定試験（4級）の過去問題を使う。筆記部分の問題を解く過程に重要な文法をピックアップして，説明し練習する。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。中国語ミニ発表機会を用意する。リスニング部分の問題は，発音とリスニングの繰り返し練習を中心に行う。よく使う表現を使って，ペアワーク対話を練習する。<br><br>【SDGs：④，⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス　中国語検定試験問題4級とは<br>② 中国語検定試験問題　１０４回　筆記部分　（１）<br>③ 中国語検定試験問題　１０４回　筆記部分　（２）<br>④ 中国語検定試験問題　１０４回　リスニングの部分　（１）<br>⑤ 中国語検定試験問題　１０４回　リスニングの部分　（２）<br>⑥ 中国語ミニ発表<br>⑦ 中国語検定試験問題　１０３回　筆記部分　（１）<br>⑧ 中国語検定試験問題　１０３回　筆記部分　（２）<br>⑨ 中国語検定試験問題　１０３回　リスニングの部分　（１）<br>⑩ 中国語検定試験問題　１０３回　リスニングの部分　（２）<br>⑪ 中国語ミニ発表<br>⑫ 中国語検定試験問題　１０２回　筆記部分　（１）<br>⑬ 中国語検定試験問題　１０２回　筆記部分　（１）<br>⑭ 中国語検定試験問題　１０２回　リスニングの部分　（１）<br>⑮ 中国語検定試験問題　１０２回　リスニングの部分　（１）<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況２０％、小テスト４０％、試験４０％による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | プリント資料を配る | | |
| 参考書 | 授業中随時紹介する | | |

| 科目名 | 応用中国語Ⅱ<br>Practical ChineseⅡ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 中国語で言いたいことを言ってみたい，中国語検定試験を受けていみたい，加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて，もう少し知ってみたい学生を対象にする。中国語検定試験（３級）の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。日常生活でよく使う中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つのスキルが備わっていることを目指す。 | | |
| 授業概要 | 後期は，中国語検定試験（３級）の過去問題を使う。筆記部分の問題を解く過程に重要な文法をピックアップして，説明し練習する。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。中国語ミニ発表機会を用意する。リスニング部分の問題は，発音とリスニングの繰り返し練習を中心に行う。よく使う表現を使って，ペアワーク対話を練習する。<br><br>【SDGs：④，⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス　中国語検定試験問題３級とは<br>② 中国語検定試験問題　１０４回　筆記部分　（１）<br>③ 中国語検定試験問題　１０４回　筆記部分　（２）<br>④ 中国語検定試験問題　１０４回　リスニングの部分　（１）<br>⑤ 中国語検定試験問題　１０４回　リスニングの部分　（２）<br>⑥ 中国語ミニ発表<br>⑦ 中国語検定試験問題　１０３回　筆記部分　（１）<br>⑧ 中国語検定試験問題　１０３回　筆記部分　（２）<br>⑨ 中国語検定試験問題　１０３回　リスニングの部分　（１）<br>⑩ 中国語検定試験問題　１０３回　リスニングの部分　（２）<br>⑪ 中国語ミニ発表<br>⑫ 中国語検定試験問題　１０２回　筆記部分　（１）<br>⑬ 中国語検定試験問題　１０２回　筆記部分　（１）<br>⑭ 中国語検定試験問題　１０２回　リスニングの部分　（１）<br>⑮ 中国語検定試験問題　１０２回　リスニングの部分　（１）<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況２０％、小テスト４０％、試験４０％による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | プリント資料を配る | | |
| 参考書 | 授業中随時紹介する | | |

| 科目名 | 初級中国語会話Ⅰ<br>Basic Chinese ConversationⅠ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 初心者向きの授業である。発音を中心にして中国語を習っていく。まずピンインや中国語特有の声調をしっかり勉強して、中国語の発音に慣れるように練習する。ピンインを見て上手に読めること、正しい発音ができることを目的にする。加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて紹介し、初級中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つの基本スキルが備わっていることを目指す。 | | |
| 授業概要 | テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。１回１課のペースで授業を進めていく。初級段階で必要な基本文型や語句を学び、自分の意志を中国語で表現するためのテクニックを磨く。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。また、習った内容を基にして中国語の発表会を開く予定である。<br><br>【SDGs：④，⑯】 | | |
| 授業計画 | ① 単母音、複合母音<br>② 子音、声調<br>③ 変調の規則<br>④ ピンイン部分の総練習<br>⑤ 第１課　私は学生です。<br>⑥ 第２課　今日は暑いです。<br>⑦ 第３課　今日は何曜日ですか。<br>⑧ 第４課　今どこにいますか。<br>⑨ 第５課　昼ご飯は何を食べたいですか。<br>⑩ 第６課　昨日何を買いましたか。<br>⑪ 第７課　今年は何歳ですか。<br>⑫ 第８課　あなたの家はここから遠いですか。<br>⑬ 第９課　今何をしていますか。<br>⑭ 復習<br>⑮ 中国語の発表会<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況２０％、小テスト４０％、試験４０％による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『１・２・３・の中国語』郁文堂出版社。著者：王武雲、朱藝、林愛華、李徳林　2,500＋税 | | |
| 参考書 | 授業中随時紹介する | | |

| 科目名 | 初級中国語会話Ⅱ<br>Basic Chinese Conversation Ⅱ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 初心者向きの授業である。発音を中心にして中国語を習っていく。まずピンインや中国語特有の声調をしっかり勉強して、中国語の発音に慣れるように練習する。ピンインを見て上手に読めること、正しい発音ができることを目的にする。加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて紹介し、初級中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つの基本スキルが備わっていることを目指す。 | | |
| 授業概要 | テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。１回１課のペースで授業を進めていく。初級段階で必要な基本文型や語句を学び、自分の意志を中国語で表現するためのテクニックを磨く。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。前期と同じように、中国語の発表会を開く予定である。<br><br>【SDGs：④，⑯】 | | |
| 授業計画 | ① 前期の復習<br>② 第10課　これはだれが作ったケーキですか。<br>③ 第11課　テニスをやることができますか。<br>④ 第12課　もうすぐ夏休みです。<br>⑤ 第13課　私が作った餃子を食べてみてください。<br>⑥ 第14課　彼らは今日何をしに来ましたか。<br>⑦ 第15課　どなたがあなたたちに英語を教えていますか。<br>⑧ 第16課　週末に旅行に行きましょう。<br>⑨ 第17課　ますます暖かくなってきました。<br>⑩ 第18課　雨に濡れて頭が痛いです。<br>⑪ 第19課　小説を読むと、眠くなります。<br>⑫ 第20課　もう一度言ってください。<br>⑬ 第21課　もし晴れるなら、山登りに行きましょう。<br>⑭ 復習<br>⑮ 中国語の発表会<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況２０％、小テスト４０％、試験４０％による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 前期使った教科書の後半を引き続き使用する | | |
| 参考書 | 授業中随時紹介する | | |

| 科目名 | 中級中国語会話Ⅰ<br>Intermediate Chinese Conversation Ⅰ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を復習しながら、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。中国語の特徴である声調を練習し、単語や短文を正しく言えるように訓練する。会話の繰り返す練習を通して、聞いて理解できることと簡単な中国語会話ができることを目指す。<br>一年間を通して「中級中国語会話I、II」で中国語検定資格の四級あるいは三級を取得できるレベルを目指す。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。<br>　テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を行う。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テスト結果も授業評価の一部とする。<br>授業に合わせ最新の中国ネタや音楽なども紹介する。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　発音の復習（第1課～第3課）<br>②　第4課　你贵姓？<br>③　文法と練習<br>④　第５課　你去哪儿？<br>⑤　文法と練習<br>⑥　第6課　我想喝普洱茶。<br>⑦　文法と練習<br>⑧　第7課　你喜欢什么？<br>⑨　文法と練習<br>⑩　第8課　中国队太厉害了！<br>⑪　文法と練習<br>⑫　復習<br>⑬　中国語の歌<br>⑭　会話作成の練習<br>⑮　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税） | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 中級中国語会話Ⅱ<br>Intermediate Chinese Conversation Ⅱ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 王　張璋 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を復習しながら、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。中国語の特徴である声調を練習し、単語や短文を正しく言えるように訓練する。会話の繰り返す練習を通して、聞いて理解できることと簡単な中国語会話ができることを目指す。<br>一年間を通して「中級中国語会話I、II」で中国語検定資格の四級あるいは三級を取得できるレベルを目指す。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。<br>その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に勤めた】<br>実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。<br>　テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を行う。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テスト結果も授業評価の一部とする。<br>授業に合わせ最新の中国ネタや音楽なども紹介する。<br>【SDGs：⑩⑯】 | | |
| 授業計画 | ①　前期の復習<br>②　第２課　中国方言多，民族也多。<br>③　文法と練習<br>④　第３課　坐地铁去吧<br>⑤　文法と練習<br>⑥　第４課　用手机上网查查。<br>⑦　文法と練習<br>⑧　第５課　我也想去锻炼锻炼。<br>⑨　文法と練習<br>⑩　第６課　你弹的古筝太好听了！<br>⑪　文法と練習<br>⑫　第７課　学习中文写作<br>⑬　文法と練習<br>⑭　中国語の発表会<br>⑮　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。<br>【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税） | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 韓国語（入門Ⅰ）<br>Korean（Basic Ⅰ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 木村　淑 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | ハングルを習得し、旅行など実際の場面で役に立つ表現を身に付ける。実践的な会話能力を身に付け、テキストの解読を通じて語学力、表現力を高めて行く。「読む、書く、聴く、話す」の四技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。到達目標としては、ハングル能力検定試験５級合格程度の韓国語能力を身につけることである。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：協会の通訳経験あり】<br>実務経験に基づき、受講者が日本語と韓国語の微妙な違いや、言語にかかわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半は韓国語の文字と基礎文法を学ぶ。（①～⑨）韓国語の文字が母音と子音の組み合わせであることを理解し、その仕組みと発音の規則を覚えながら、単語を使った簡単なミニ会話練習をする。発音の規則を理解しているかを確認するため、韓国の歌の発表を行う（⑩）後半は実際のコニュニケーションの場面を想定した会話練習（⑪～⑮）を行う。具体的には、自己紹介の仕方（⑪⑫）、断定の丁寧表現（⑬）、打ち消し（⑭）、相手への質問（⑮）会話の基礎となる文型を覚え、コミュニケーション能力を高めていく。また、言語学習だけでなく、ビデオ教材の視聴を通して、言語表現の背後にある韓国の文化に対する理解を深めていく。<br>【SDGs：⑰】 | | |
| 授業計画 | ① ハングルのしくみ及び母音五つ、子音四つ<br>② 基本母音10個、基本母音と子音四つの組み合わせ<br>③ 子音（五つ）、日本の地名<br>④ 合成母音１（四つ）、バッチム１（四つ）連音化１<br>⑤ 激音（五つ）、合成母音2（二つ）、日本語のハングル表記<br>⑥ バッチム２（三つ）、連音化２、合成母音３（五つ）<br>⑦ 激音化、濃音（五つ）<br>⑧ バッチム(3)、濃音化、漢数詞<br>⑨ 総復習<br>⑩ 韓国歌の発表<br>⑪ ～は～です。（１）「私の名前は天野ひかりです」<br>⑫ ～は～です。（２）「私の趣味は旅行です」<br>⑬ ～ですか？（１）「これはすきやきですか？」<br>⑭ ～ではありません「これはすきやきではありません」<br>⑮ ～が「ここが昌徳宮です」<br>⑯ 定期試験、自己紹介発表 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。<br>【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。 | | |
| 評価方法 | 発表１０％、提出物及び受講態度２０％、小テスト３０％、定期試験４０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『ひかりとシフのどきどき韓国語』／著：李正子/金昭鋏／出版：朝日出版社 | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 韓国語（入門Ⅱ）<br>Korean（Basic Ⅱ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 孫　ミギョン | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 韓国語の文字であるハングルの読み書きと簡単な韓国語会話の習得を目標とする。「韓国語（入門Ⅰ）」の学習の上に、実践的な韓国語能力を身につけるために必要な「読む、聞く、書く、話す」の四つの技能に関する基礎をさらに習得する。ハングルを確実に読むことができ、書くことができるようになること、そして韓国語の簡単な文章がさらに発話できるようになることを目的とする。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】<br>韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけではなく、言語に関わる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。各回の講義内容は一応次のように予定しているが、時間の関係と到達度で若干前後する場合がある。実務経験に基づき、履修者が習得に困難を感じると考えられる点については時間をとって説明する。<br><br>【SDGs：⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① 週末に何をしますか？<br>② どこに行きたいですか？<br>③ はじめまして<br>④ 何に興味がありますか？<br>⑤ このバス、北村に行きますか？<br>⑥ 昨日シフさんと北漢山に行った<br>⑦ トムヤンクンを食べに行きます<br>⑧ あとでSNSにあげますから<br>⑨ 新堂洞に行きましょうか？<br>⑩ やっぱり私には<br>⑪ 来週に試験をします<br>⑫ カンブくスタイル<br>⑬ 漢江に行ったら<br>⑭ 野外授業<br>⑮ どこか悪いんですか？<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】 各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。<br>【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。 | | |
| 評価方法 | 発表10％、提出物及び授業態度20％、小テスト30％、定期試験40％(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない) | | |
| 履修条件 | 韓国語入門1の単位を履修していること。 | | |
| 教科書 | 『ひかりとシフのときどき韓国語』／著：李正子／金昭鋏／出版：朝日出版社 | | |
| 参考書 | なし。 | | |

| 科目名 | 韓国語（会話Ⅰ）<br>Korean （ConversationⅠ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 木村　淑 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現を覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した語や文を聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。他者が発話した韓国語を正確に書き取ることができるかが評価の対象になる。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：協会の通訳経験あり】<br><br>実務経験に基づき、受講者が日本語と韓国語の微妙な違いや、言語にかかわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。実際のコニュニケーションの場面を想定した会話練習を行うので、受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。反復学習により、文型をしっかり覚え、コミュニケーション能力を高めていく。また、言語学習だけでなく、ビデオ教材の視聴を通して、言語表現の背後にある韓国の文化に対する理解を深めていく。<br><br>【SDGs:⑰】 | | |
| 授業計画 | ①　（今から）～する（意志表現）、～ために（目的）～だが（逆説）「初めまして」<br>②　～から（時間、場所）「～興味がありますか？」<br>③　～や、黙音化「このバス、北村に行きますか？<br>④　～て、ので（原因）、～で、て（並列）「昨日シフさんと北漢山に行った」<br>⑤　～しに（行く・来る）、～れば、なら、たら（仮定表現）<br>⑥　～しようと思う（計画）「トムヤンクンを食べに行きます」<br>⑦　～することが出来る（可能）～しますね、しますから（約束）「後でSNSに上げますから」<br>⑧　～が好きだ、～ましょうか？（意向）、～ましょう（勧誘）「新堂洞に行きましょうか？」<br>⑨　形容詞の現在連体形、～ない（否定）～に（人間や動物）「やはり私には」<br>⑩　～つもりです、～でしょう（意志、推測）～しないでください、ㅂ不規則<br>⑪　ㄷ不規則、～する前、～ですね「カンブクスタイル」<br>⑫　動詞の現在連体形、～ので、から（理由）「漢江に行ったら」<br>⑬　～て（動作の順序）～なさってください、～まで（時間、場所の範囲）「野外授業」<br>⑭　으不規則、～出来ない、しなければならない、すべき「どこが悪いんですか？」<br>⑮　～ですよね（確認や同意）ㄹ不規則、ㅎ不規則、～ですが<br>⑯　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。<br>【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。 | | |
| 評価方法 | 発表及び提出物２０％、　授業態度１０％、　小テスト３０％、定期試験４０％ | | |
| 履修条件 | 「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を修得していること。 | | |
| 教科書 | 『ひかりとシフのどきどき韓国語』／著：李正子/金昭鍈／出版：朝日出版社 | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | 韓国語（会話Ⅱ）<br>Korean （ConversationⅡ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 孫　ミギョン | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「韓国語(入門Ⅰ・Ⅱ)」「韓国語(会話Ⅰ)」の学習の上に、韓国朝鮮語で初級レベルの日常会話がさらにできるようになることを最終目標とする。具体的には、韓国語で挨拶や自己紹介ができるようになること、韓国人と接した際に簡単な会話がさらにできるようなることを目的とする。韓国に対する関心、興味、理解が深まることを目的に授業展開を目指す。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験:公的機関等で通訳、翻訳の経験あり】<br>実務経験に基づき、受講者が習得に困難を感じると考えられる点に関しては時間をとって説明する。テキストにしたがって授業を進める。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。それによって受講者が韓国語の会話能力を高めていくことを目指している。各回の講義内容は一応次のように予定しているが、時間の関係と到達度で若干前後する場合がある。常に予習復習を心掛けてほしい。<br><br>【SDGs:⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ①　-는(動詞の現在連体形), -기 전에, -겠-/ 第1課 「제 친구를 소개하겠습니다」<br>②　-(으)ㄹ게요, -고, -아/어 주세요 /第2課 「이메일 주소도 좀 알려주세요」<br>③　-(으)ㄹ까요?, -(으)ㄴ(形容詞･指定詞の現在連体形), -게/第3課　오늘 점심 뭘로 할까요?<br>④　-(으)면, -아야/어야 되다, -(으)려면/第4課 「1호선을 타면 인사동에 가요?」<br>⑤　復習<br>⑥　-아/어 보다, -아도/어도 되다, -(으)ㄴ데/第5課 「한번 신어 봐도 돼요?」<br>⑦　-(으)ㄹ래요, -(으)니까, -지만/第6課 「명동에 같이 갈래요?」<br>⑧　-아서/어서, -거든요, -(으)ㄴ(動詞の過去連体形)/第7課 「가르친 경험이 있어서 괜찮아요.<br>⑨　-(으)ㄴ 것 같다, -는데, -지 말다/第8課 「감기 걸린 것 같아요」<br>⑩　復習<br>⑪　-(으)러, -아/어 있다, -네요/第9課 「핸드폰을 찾으러 왔는데요」<br>⑫　-(으)ㄹ 수 있다/없다, -(으)ㄹ 것 같다, -(으)ㄹ 때/第10課 「고장 신고를 인터넷으로 할 수<br>⑬　-(으)면 안 되다, -(으)ㄹ(未来連体形), -잖아요/第11課 「대신 반납해 주면 안 돼요?」<br>⑭　-(으)면서, -(으)ㄹ 생각이다, 못/第12課 「쉬면서 대학원 준비할 생각이에요」<br>⑮　復習<br>⑯　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。<br>【復習】毎回授業の復習に努めること。 | | |
| 評価方法 | 発表及び提出物20％、授業態度10％、小テスト30％、定期試験40％(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない) | | |
| 履修条件 | 「韓国語(入門Ⅰ・Ⅱ)」、「韓国語(会話Ⅰ)」の単位を履修していること | | |
| 教科書 | 『ロールプレイで学ぶ韓国語　初級～中級へ』／著:睦宗均、須賀井義教／白水社 | | |
| 参考書 | なし。 | | |

| 科目名 | 韓国語（文法・読解Ⅰ）<br>Korean （Grammar and Reading Ⅰ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「韓国語（入門Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現が理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】<br><br>配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。<br><br>【SDGs：⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① ～です。～ではありません。<br>② あります。います。ありません。いません。<br>③ ～します。～しますか。<br>④ ～ですか。<br>⑤ 何ですか。<br>⑥ いかがですか。<br>⑦ ～なさいます。～してください。～しましょう。<br>⑧ ～を～します。<br>⑨ どこに行きますか。<br>⑩ 時間<br>⑪ 何が好きですか。<br>⑫ 数<br>⑬ ～しましょうか。～でしょう。<br>⑭ 過去形<br>⑮ 不規則変化（１）<br>⑯ テスト | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。<br>【復習】毎回授業の復習に努めること。 | | |
| 評価方法 | テスト50%、出席状況および授業態度50%。 | | |
| 履修条件 | 「韓国語（入門Ⅰ）」の単位を修得していること。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 「韓国語（入門Ⅰ）」で使用した教科書。 | | |

| 科目名 | 韓国語（文法・読解Ⅱ）<br>Korean （Grammar and Reading Ⅱ） | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（2年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 川上　新二 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項をさらに習得し、韓国語の基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】<br><br>配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。<br><br>【SDGs：⑩,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① ～から～まで。～だけれども。～しないでください。<br>② ～で（場所、手段）<br>③ ㅂ不規則変化、ㄹ不規則変化、理由(으)니까<br>④ ～に（誰に）、～ですね。<br>⑤ 名詞を修飾する形<br>⑥ ㄷ不規則変化、理由아서<br>⑦ 理由기 때문에<br>⑧ 文章の接続<br>⑨ 推測、推量　～のようです、～でしょう<br>⑩ ～ならば、<br>⑪ ～できる、～できない<br>⑫ 文末表現（１）<br>⑬ 文末表現（２）<br>⑭ 不規則変化・復習（１）<br>⑮ 不規則変化・復習（２）<br>⑯ テスト | | |
| 予復習等 | 【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。<br>【復習】毎回授業の復習に努めること。 | | |
| 評価方法 | テスト５０％、出席状況および授業態度５０％。（授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象とならない） | | |
| 履修条件 | 「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を履修していること。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | 「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。 | | |

| 科目名 | 情報･統計処理<br>Information/Statistical Processing | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 長谷川　旭 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。<br>統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。 | | |
| 授業概要 | 最初に、表計算ソフトの利用法について学びます。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、この地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。<br>【SDGs：④,⑨】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、アンケート調査と身近にある統計<br>② 表計算ソフトの利用方法（関数、グラフ作成）<br>③ 単純集計表とクロス集計表<br>④ 代表値とばらつき、度数分布<br>⑤ 正規分布、二項分布<br>⑥ 標本調査とその誤差<br>⑦ データ処理の基礎と、まとめ<br>⑧ 統計処理演習(1) 実験データの収集<br>⑨ 統計処理演習(2) 実験データの分析<br>⑩ 統計処理演習(3) 時系列データの収集<br>⑪ 統計処理演習(4) 時系列データの分析<br>⑫ 統計処理演習(5) 2標本の検定<br>⑬ 情報処理(1) 課題設定<br>⑭ 情報処理(2) 文献検索<br>⑮ 情報処理(3) 発表 | | |
| 予復習等 | 【予習】ガイダンスや毎回授業集に指示する。<br>【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。 | | |
| 評価方法 | 出席・授業参加度３０％、授業内小テスト・課題７０％ | | |
| 履修条件 | なし。 | | |
| 教科書 | なし。配布する資料を参考とすること。 | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | |

| 科目名 | 日本語表現法Ⅰ<br>Japanese Composition Ⅰ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 村中　菜摘 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 日本語を世界の一言語としてとらえ、その性質を客観的に見ることで、読み手に伝わりやすい書きことばの表現はどのようなものかを自分で考えられ、作文に応用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、文章を書くそれぞれの場面に応じて適切な表現を選択できるようになることを到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず世界の一言語として日本語の特質を客観的にとらえることから始め、作文において読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学んでいく。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用いながら、実用的な文章として案内文や手紙文を書く作業や、文章の要点をとらえてまとめる練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。書きことばの面から円滑なコミュニケーションを図る力を育む。<br>【SDGs：④,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（１）<br>② 日本語の書きことばの特質（２）<br>③ 日本語の書きことばの特質（３）<br>④ 語句の選択、自然な語順、表記についての基礎知識<br>⑤ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（１）<br>⑥ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（２）<br>⑦ 婉曲語・改まり語・美化語・丁重語、文章を書く前の留意点<br>⑧ 文章の種類と型から、求められる内容について考える<br>⑨ サンプルを参考に案内文を作成する<br>⑩ 手紙文の構造研究、サンプルを参考に手紙文を作成する（１）<br>⑪ サンプルを参考に手紙文を作成する（２）・発表<br>⑫ 文章を読んで要点を捉える（１）<br>⑬ 文章を読んで要点を捉える（２）<br>⑭ レポートの条件、レポートの構造を知る、全体の構想を練る<br>⑮ レポートに題目を付ける、レポートをまとめる<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと<br>【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度４０％、課題・発表への取り組み３０％、定期試験３０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『日本語表現法Ⅰ 付ワークブック改訂版』／著：沖森卓也・半沢幹一／出版：三省堂 | | |
| 参考書 | 必要に応じてプリントを配布する | | |

| 科目名 | 日本語表現法Ⅱ<br>Japanese Composition Ⅱ | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 村中　菜摘 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | コミュニケーションにおけることばの重要性を再認識し、場面や相手に応じて適切なことば遣いの選択ができるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に適切な敬語の使い方を中心に、丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、実生活で自分の置かれた場面や相手の立場に応じて自然にこれを活用できるようになることを到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。更に、緊張した場面に身を置いた際にも自分の言いたいことを的確に伝えられるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。話しことば・聞く姿勢の面から円滑なコミュニケーションを図るための力を育む。<br>【SDGs：④,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認<br>② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する<br>③ あいさつの目的とは、第二のあいさつ・気配りワードを用いた発話作り<br>④ ロールプレイ（１）初対面の相手との話題作り<br>⑤ 美しい発音・発声、語尾・話しぐせを意識する<br>⑥ 発話内容を簡潔にまとめ、明確に伝える<br>⑦ 敬語はなぜ必要か、敬語の種類の復習<br>⑧ 敬語のロールプレイ（１）準備<br>⑨ 敬語のロールプレイ（２）準備<br>⑩ 敬語のロールプレイ（３）発表および講評<br>⑪ 話の構成技術を学ぶ（１）<br>⑫ 話の構成技術を学ぶ（２）<br>⑬ 話の構成技術を学ぶ（３）成果発表<br>⑭ 効果的な話の聞き方（１）<br>⑮ 効果的な話の聞き方（２）<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと。<br>【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。 | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度４０％、演習・発表への取り組み３０％、定期試験３０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット | | |
| 参考書 | 必要に応じてプリントを配布する | | |

| 科目名 | 多文化共生論<br>Multicultural Society | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 王　武云 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 本講義の目的は、「多文化共生」をめぐる様々な争点について、事例を用いて多角的に検討し、異文化理解のための基本的視座と方法を学ぶことである。具体的には、多文化共生に関する様々な言論ならびに文化の状況を紹介し、多様な文化的背景を持った人々が相互交流するに際して、何がどのように問題化し、解決や妥協が目指されてきたかを、実例をあげて検討する。また日本との比較を適宜試みることで、受講者は文化の多様性や異文化交流の意義を理解する。 | | |
| 授業概要 | 多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より）である。これを理解するため、まず、英語圏の文化的多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状ならびに課題を考察する。次に、日本をはじめ、アジアにおける多文化共生の現状及び必要性を検討する。授業で学んだ視座と方法を、様々な文化的事象に適用して考察し、多文化共生に対する自分の考え方を発表してもらう。毎回の講義後にはコメント票を配り、質問や意見などを聴取しつつ、授業に関する受講者の理解度を確認する。<br><br>【SDGs：⑩,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① イントロダクション<br>② 多文化共生とは？<br>③ アメリカにおける多文化共生①<br>④ アメリカにおける多文化共生②<br>⑤ アメリカにおける多文化共生③<br>⑥ ヨーロッパにおける多文化共生①<br>⑦ ヨーロッパにおける多文化共生②<br>⑧ ヨーロッパにおける多文化共生③<br>⑨ アジアにおける多文化共生①<br>⑩ アジアにおける多文化共生②<br>⑪ アジアにおける多文化共生③<br>⑫ 岐阜県における多文化共生<br>⑬ グループ発表①<br>⑭ グループ発表②<br>⑮ グループ発表③<br>⑯ 定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】講義内で配る資料の内容について予習をすること<br>【復習】講義の内容を理解した上で、関連するテーマについて参考書等で調べること | | |
| 評価方法 | 出席状況・授業態度２０％、課題提出２０％、定期試験６０％ | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | なし、プリント配布 | | |
| 参考書 | 講義内で随時指示する。 | | |

| 科目名 | 国際経済論<br>International Economics | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 松葉　敬文 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 国際社会における経済の状況を学び、国際経済について考察し、国際社会の経済問題について自ら考えること出来るようになる。特に教育と社会資本整備の重要性を学びつつ、国際社会における女性の実情を知り、自身が国際社会に参加する意義を学習する。これによりグローバル社会の一員であることを理解し、自らの選択について考え、国際社会の課題を説明し、対処できるようになることを到達目標とする。 | | |
| 授業概要 | 地球規模で経済が繋がるようになり、グローバリゼーションという言葉は日常に深く根差すようになった。日欧EPAやTPP11、そして東南アジア・東アジア・豪・NZを包括する連携協定（RCEP）など国際取引を促進させる協定が次々に締結され、国際的な物流の変化は日常生活にも大きな影響を与えている。しかし世界の人々が享受する豊かさには大きな偏りがあり、米国前大統領のトランプ氏に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も表面化している。本講義では、様々な国の経済事情について学びながら、国際的な経済の繋がりと豊かさについて考えるものとする。<br><br>【SDGs：①,②,③,④,⑤,⑦,⑧,⑨,⑩,⑪,⑬,⑭,⑯,⑰】 | | |
| 授業計画 | ① はじめに―オリエンテーション<br>② 貿易利益(1)―国際分業<br>③ 貿易利益(2) ―比較優位の考え方<br>④ 私達の生活水準―先進国と絶対的貧困<br>⑤ 豊かさの捉え方(1)―GDPの基礎概念<br>⑥ 豊かさの捉え方(2)―HDIとHAI<br>⑦ 経済成長と女性の力<br>⑧ 経済的脆弱性―EVI<br>⑨ 様々な途上国(1)―後発開発途上国<br>⑩ 様々な途上国(2)―小島嶼開発途上国<br>⑪ 様々な途上国(3)―内陸開発途上国<br>⑫ 貿易と産業構造<br>⑬ 保護貿易の功罪<br>⑭ FTA・EPAとグローバリゼーション<br>⑮ グローバリゼーションの光と影<br>⑯ 定期試験―記述式 | | |
| 予復習等 | 【予習】諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。<br>【復習】呈示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。 | | |
| 評価方法 | 出席状況・受講態度３０％、定期試験７０％ | | |
| 履修条件 | 興味を持って講義に臨む。必須ではないが「生活と経済」を受講していることが望ましい。 | | |
| 教科書 | 書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。 | | |
| 参考書 | 講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を要するものではない。 | | |

| 科目名 | 人間関係論<br>Human Relationships | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 吉田　琢哉 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 適切なコミュニケーションを行うためには、コミュニケーションの技術の習得のみならず，様々な立場の人への理解が必要となる。本授業では，まず対人認知、感情の制御、社会的スキル、説得技法、批判的思考など、心理学的な知見を学ぶ。そしてグループワークを交えながら、コミュニケーションの基本的な技法についても理解を深める。 | | |
| 授業概要 | 社会的存在としての人間を理解するために，対人場面での人の認知・行動や学習の原理について考える。具体的なトピックとして，他者の認知，他者存在の影響，対人コミュニケーションにおける非言語的手がかりや感情の役割，学習への動機づけ等について取り上げる。これまでの研究結果や諸理論について概観しながら，またグループワークなどの実践を通して，多様な社会の中で幅広いものの見方ができる能力を養うことを目指す。<br><br>【SDGs：③,⑯】 | | |
| 授業計画 | ① オリエンテーション・コミュニケーションスキルとは<br>② 学習の原理（１）学習と記憶<br>③ 非言語情報への注目<br>④ 感情のコントロール<br>⑤ 学習の原理（２）動機づけ<br>⑥ 思いを伝える／話をきく<br>⑦ 他者を見て比べる心<br>⑧ 他者を好きになる心<br>⑨ 他者の排斥<br>⑩ 相手を説得する<br>⑪ 情報を吟味する<br>⑫ 思考の落とし穴<br>⑬ リスク・コミュニケーション<br>⑭ チームワークを高める<br>⑮ まとめ | | |
| 予復習等 | 【予習】事前に資料を精読してくること。<br>【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。 | | |
| 評価方法 | 受講態度３０％，小レポート１０％×４，最終レポート３０％。小レポートは３回の未提出で不可とする。他の学生の学習動機づけを下げたり，迷惑を及ぼす行為は減点となる。 | | |
| 履修条件 | なし。真摯な態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。 | | |
| 教科書 | なし。プリントを配布する。 | | |
| 参考書 | なし。 | | |

| 科目名 | 観光論<br>Tourism | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 早川　秀昭 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | 「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義を観光産業の視点から考える。「観光」の間口は広いので、その「学びの間口の広さ」から観光を学ぶことを通して問題発見能力―「何が必要か」「何が問題か」、そして問題解決能力―「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験：旅行会社にてカウンターセールス、外回り営業、添乗業務および財務担当として決算業務の経験あり。】<br>「21世紀は観光の時代である」といわれるが、人間が人間らしく生き、人生を充実させていくうえで「観光（旅）」は不可欠である。「観光（旅）」に関わる基本的な事柄を踏まえ、観光ビジネスの特性と、観光ビジネス分野で起きていることや今後の展望について学んでいく。また地域に関して、地域がなぜ「観光振興」に熱心取り組むのか、観光消費の産業関連（地域波及）の流れと、観光と地域振興、観光とまちづくりとの関わりにも焦点を当てていく。「観光（旅）」と密接に結びついている歴史・文化の観点も加味しながら、「観光（旅）」の持つ楽しさも同時に学んでいく。<br>【SDGs：③,⑨,⑪】 | | |
| 授業計画 | ①　オリエンテーション－観光を学ぶ意義と観光の様々な効果<br>②　観光にかかわる言葉<br>③　観光のしくみ<br>④　観光資源と観光対象<br>⑤　観光産業の構成と特徴<br>⑥　様々な観光ビジネス－旅行業<br>⑦　様々な観光ビジネス－宿泊産業<br>⑧　様々な観光ビジネス－交通運輸業<br>⑨　様々な観光ビジネス－テーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業<br>⑩　観光と情報<br>⑪　観光政策と観光行政<br>⑫　観光のマーケティング<br>⑬　旅の歴史とこれからの旅行<br>⑭　観光と国際経済・社会・文化－インバウンドと異文化理解<br>⑮　まとめ－サステイナブルツーリズムとユニバーサルツーリズム<br>⑯　定期試験 | | |
| 予復習等 | 【予習】教科書の授業に該当するところをよく読んでおくこと。<br>【復習】授業で学んだことをふまえ、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。 | | |
| 評価方法 | 定期試験（90%）に出席状況等（10%）を加味して評価する。 | | |
| 履修条件 | なし | | |
| 教科書 | 『観光学基礎　観光に関する14章』/　出版：株式会社ＪＴＢ総合研究所 | | |
| 参考書 | なし | | |

| 科目名 | ホテル論<br>Hotel Management | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 選択 |
| 開講学科 | 国際文化学科（１年後期） | 科目区分 | 講義 |
| 担当者 | 市橋　孝由 | 教員区分 | 非常勤講師 |
| 授業目的<br>到達目標 | ホテルは『最高の常識』であると言われています。　社会に出た時に必要な『マナー』や『エチケット』の基本となる『ホスピタリティ』を学んでいただき社会人になった際に遭遇するであろう様々な場面で『コミュニケーション力』を発揮できる一助になればと考えています。<br>学生が『ホテル業務』を学び『ホスピタリティ』について考察し理解をする事で『コミュニケーション能力』を付ける事を目標とします。 | | |
| 授業概要 | 【担当者の実務経験】ホテルに入社後、料飲サービス・セールス・営業所勤務・フロントを経験して現在（総支配人）に至る。　実体験を交えて講義を組み立てていきます。<br>社会がどのように進化・発展をしたとしても『時流』に合わせて自らも変化をしていくのがホテルです。　まさに『その時代を映し出す鏡』のようなものだと言えます。　どれほど『ＡＩ』が進化しても『人がコミュニケーションを取り合う』事は無くなりませんし大切な部分であると言えます。　サービス業において長い歴史と高いレベルのサービスを有するホテルの『ホスピタリティ』を通して『コミュニケーション』の存在意義と人との関りの素晴らしさを学んでいただきたいと考えています。<br>【SDGs：⑤,⑰】 | | |
| 授業計画 | ①　はじめに　自己紹介と今後のスケジュールについて。　ホテル論の入り口<br>②　ホテルの歴史と形態<br>③　ホテルの特性と組織<br>④　ホテルマンシップ　身だしなみと所作<br>⑤　宿泊部門（１）　フロントクラーク<br>⑥　宿泊部門（２）　客室（ハウスキーピング）<br>⑦　料飲部門（宴会）　宴会のスタイル<br>⑧　料飲部門（レストラン）　レストランサービス<br>⑨　ブライダル部門（挙式のスタイルと流れ）<br>⑩　マーケティング部門（内容と役割）<br>⑪予約業務編（宿泊予約と宴会予約）<br>⑫　企画部門と各部署との連携<br>⑬　管理部門の業務と機能<br>⑭　地域とホテル　ホテルの将来像　（レポートについての説明）<br>⑮　振り返り（今までのホテル論の総括） | | |
| 予復習等 | 『予　習』　テレビ・新聞・ネットなどのニュースを注意して社会の動きを見ておく事。<br>『復　習』　配布した資料を見直しつつ講義で話した内容を振り返る。 | | |
| 評価方法 | 出席状況・授業態度（姿勢）　評価率７０％　課題レポート提出（必須）評価率３０％ | | |
| 履修条件 | 学修規程による。　私語をせず真摯な態度で授業に臨む。 | | |
| 教科書 | 無し。プリントを配布。 | | |
| 参考書 | 無し。 | | |

| 科目名 | 専門演習<br>Seminar | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年前期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 各担当教員 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 専門演習に関連したテーマについて、各担当教員の指導のもと、研究に関する知識を身につける。学生自らが文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。情報系の専門演習では、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究に向けての動機付けを行う。 | | |
| 授業概要 | ゼミは、1年生の後期に実施されるゼミ説明会に出席して、自分の研究分野と指導教員を決める。ゼミ配属が決定した後、各担当教員の指導に従い、各自研究テーマを設定して、調査・研究を行い、その成果を口頭発表して、レポートにまとめていく。それを通じて、各自、卒業論文のテーマを絞り込んでいく。<br><br>【SDGs⑩,⑰】 | | |
| 授業計画 | ①　（文化・文学）文献講読（1）　（情報）プログラムの基本と実行（1）<br>②　（文化・文学）文献講読（2）　（情報）プログラムの基本と実行（2）<br>③　（文化・文学）文献講読（3）　（情報）プログラムの基本と実行（3）<br>④　（文化・文学）文献講読（4）　（情報）プログラムの基本と実行（4）<br>⑤　（文化・文学）文献講読（5）　（情報）プログラムの基本と実行（5）<br>⑥　（文化・文学）文献・調査研究（1）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑦　（文化・文学）文献・調査研究（2）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑧　（文化・文学）文献・調査研究（3）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑨　（文化・文学）文献・調査研究（4）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑩　（文化・文学）文献・調査研究（5）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑪　（文化・文学）卒論主題設定（1）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑫　（文化・文学）卒論主題設定（2）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑬　（文化・文学）卒論中間報告（1）　（情報）テキストによるプログラム学習<br>⑭　（文化・文学）卒論中間報告（2）　（情報）プログラム課題（1）<br>⑮　（文化・文学）卒論中間報告（3）　（情報）プログラム課題（2） | | |
| 予復習等 | 【予習】各担当教員が指示する。<br>【復習】毎回各担当教員が指示する内容について復習すること。 | | |
| 評価方法 | 初回の授業で各担当教員が提示する。 | | |
| 履修条件 | 2年生に進級する必要な合計単位数が取得できていること。 | | |
| 教科書 | 各担当教員が授業中に提示する。 | | |
| 参考書 | 各担当教員が授業中に提示する。 | | |

| 科目名 | 卒業研究　［国文］<br>Graduation Thesis/Graduation Works | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|
| | | 必選区分 | 必修 |
| 開講学科 | 国際文化学科（２年後期） | 科目区分 | 演習 |
| 担当者 | 各担当教員 | 教員区分 | 学内教員 |
| 授業目的<br>到達目標 | 各担当教員による指導のもと、学生自らが問題意識を持って、各自が関心をもつテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。これを通じて、問題解決能力や計画遂行能力、分析力を身につける。 | | |
| 授業概要 | 各担当教員による指導のもと、各自の研究テーマや研究計画を立て、これに基づいて調査・研究を進めていく。その成果を卒業論文または卒業研究としてまとめ、各担当教員のもとで卒業論文または卒業研究の発表会を開催する。最後に、すべてのゼミ合同で発表会も実施する。<br><br>【SDGs：⑩,⑰】 | | |
| 授業計画 | ①　（文化・文学）文献講読（1）　（情報）テーマの決定<br>②　（文化・文学）文献講読（2）　（情報）データ収集（1）<br>③　（文化・文学）文献講読（3）　（情報）データ収集（2）<br>④　（文化・文学）文献講読（4）　（情報）データ収集（3）<br>⑤　（文化・文学）文献講読（5）　（情報）データ収集（4）<br>⑥　（文化・文学）文献講読（6）　（情報）データ収集（5）<br>⑦　（文化・文学）文献・調査研究（1）　（情報）プログラム作成（1）<br>⑧　（文化・文学）文献・調査研究（2）　（情報）プログラム作成（2）<br>⑨　（文化・文学）文献・調査研究（3）　（情報）プログラム作成（3）<br>⑩　（文化・文学）文献・調査研究（4）　（情報）プログラム作成（4）<br>⑪　（文化・文学）文献・調査研究（5）　（情報）プログラム作成（5）<br>⑫　（文化・文学）文献・調査研究（6）　（情報）プログラム作成（6）<br>⑬　（文化・文学）卒論発表（1）　（情報）プレゼンテーション作成（1）<br>⑭　（文化・文学）卒論発表（2）　（情報）プレゼンテーション作成（2）<br>⑮　（文化・文学）卒論発表（3）　（情報）卒業研究発表 | | |
| 予復習等 | 【予習】各担当教員が授業中に指示する。<br>【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。 | | |
| 評価方法 | 初回の授業で各担当教員が提示する。 | | |
| 履修条件 | 前期の専門演習の単位を取得していること。 | | |
| 教科書 | 各担当教員が授業の中で提示する。 | | |
| 参考書 | 各担当教員が授業の中で提示する。 | | |